櫻園通信 33. 平成 28 年 4 月
東京都健康長寿医療センター
養育院・渋沢記念コーナー
連絡先：老年学情報センター

草木塔 1

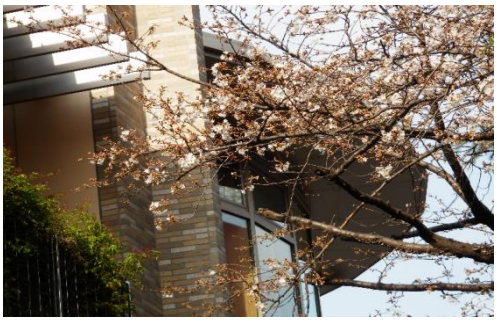
以前、東北を旅していて、ある家の庭先に『草木塔』と書いた石碑を見つけた。いろいろ鉢植えを買ってきては、花期が済むと枯らしてしまうことを繰り返していて、なんとなく罪悪感があったのですが、この家の主もそうなのかなと、いたく感銘した。枯らした草木の成仏を願う姿を想像したのです。

その後いろいろ調べて見ると、草木塔（そうもくとう）とは、「草木塔」、「草木供養塔」、「草木供養経」、「山川草木悉皆成仏」などという碑文が刻まれている塔の総称で、国内に 160 基以上の存在が確認されているそうです。建立されている地域の約 9 割は山形県内の、特に置賜地方と呼ばれる地域に集中するようで、独特な石造物文化遺産ということがわかりました。最も古い「草木塔」は、江戸時代中期の安永九年（1780）に山形県米沢市に建立されたものだそうです。現在のところ、江戸時代に建立された草木塔は 34 基が確認されており、その気持ちで新たに建てられるものもあちこちにあるようです。当院にもあってもいいように思いますが、さしあたっては敷地内の草木案内を『草木塔』と称して、櫻園通信集のひとつのシリーズとしてみたい。

① サクラ（桜）

以前から板橋の養育院はちょっとした桜の名所で、春一番に咲く彼岸桜、通路を貫く道の左右に並木をなす染井吉野の老木、大きく聳える菊咲きの桜、花が黄緑色の鬱金桜、老研のまわりの八重桜、大島桜の古木など、花めぐりはこの季節の大きな楽しみでした。10 年ほど前に、板橋の旧養育院敷地の桜の木の数を調べたことがあります。桜木を数えながら線路向こうの敷地まで歩き回っりましたが、100 本を超えていました。中学校や大山公園などの旧養育院敷地を含めると、更に多くなるでしょう。新施設の建設などで、その多くは伐採され、近隣住民のお小言も頂いた。せめてもの罪滅ぼしにと、桜材の一部が新施設に使われている。病院設計者のせめてもの気持ちが養育院記念コーナーや外来の内装に使われています。またこの冊子を『櫻園通信』と名づけたのにも、伐採された桜木たちへの、「山川草木悉皆成仏」という思いがあってのことです。そんなこともあって、「養育院渋沢記念コーナー」の窓から、咲き誇る染井吉野が見られるのはうれしいことです。

新施設の建設後、多くの桜をめでた職員は去り、そして若い職員が加わりました。植栽にも、病院玄関の山桜、屋上庭園の小ぶりの豆桜（フジ桜）の新顔が加わりました。渋沢銅像の周りには、染井吉野の老樹が咲き誇っています。通りすがりの 3 歳児が、その足元にいたので、お母さんの許可を得てパチリ…時代は流れてゆきます・・・



②ツルニチニソウ（蔓日日草）

　センターの玄関を入ったところの円形花壇の中央はケヤキ（欅）の木で、その根元などに植えられているのが、キョウチクトウ科のツルニチニチソウです。もともとヨーロッパの地中海沿岸が原産地ですが、日本には明治時代に観賞用グランドカバーとして導入されました。早春から夏にかけて青色の花を咲かせ、長く楽しませてくれるます。繁殖力が強く、今や花壇から逸出して、人家の近くのあちこちに野生化しています。同様のことは南北アメリカやオーストラリアにも起こっているそうです。野生化しているものは葉に斑が無く、白い斑の入るものは園芸種が多いようです。

　屋上庭園にはこれよりも花が小ぶりのヒメツルニチニチソウが植えられています。花の色も濃い青紫で、かなり雰囲気は異なります。

　昔から親しまれてきたニチニチソウ（日日草）は、同じキョウチクトウ科ですが、西インド諸島の原産です。花は短命で 3～5 日しか保ちませんが、盛りの時期には毎日絶え間なく白、紅、赤、ピンクなどの新しい花を咲かせるところから、日々草の名前があります。江戸時代中期に観賞用に導入されたようで、主に夏から秋に花壇や鉢植えで楽しむ昔からの草花です。日本では霜の降りる頃に寒さで枯れることが多いので、一年草として扱い、野生化することは無いようです。種々のアルカロイドを含み、ビンクリスチン、ビンブラスチンなどの抗がん剤の原料となっています。初夏、センターの前の家の前に例も年鉢植えで育てられ、花を咲かせています。

③ジンチョウゲ（沈丁花）

　ジンチョウゲ（沈丁花）は常緑低木で、チンチョウゲとも言われ、漢名：瑞香、別名：輪丁花という名前もあります。 原産地は中国南部で、日本では室町時代頃にはすでに栽培されていたようです。2 月末から 3 月に花を咲かせ、強い芳香を放つポピューラな庭木で、センターの庭園にも多数植えられています。つぼみは濃紅色で、開いた花は淡紅色でおしべは黄色、枝の先に 20 ほどの小さな花が手毬状に固まってつき、花を囲むように葉が放射状につきます。白花のものもあります。葉の形は月桂樹の葉に似ていますが、より軟弱です。日本にある木は、ほとんどが雄株で雌株はほとんどなく、挿し木で増やします。類縁の灌木にミツマタ（三俣）があり、センター近くの民家の庭に咲いています。